

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200158		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら浦安海楽(2階)		
所在地	千葉県浦安市海楽2-6-12		
自己評価作成日	令和3年7月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和3年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前中はラジオ体操に加え足の体操を強化して下肢筋力低下に努めています。また、外気浴や散歩を行っています。午後は室内で出来るレクリエーションに切替え、ゆったりとした時間を作るようにしており、身体が夜に向けて自然に安らげるような日課にしています。  
 今年は外出行事も地域の行事もないため、室内で過ごす事が多いため、ご利用者様の身体能力が衰えないように、体操や手足口の動きを意識したレクリエーションで身体機能の低下防止を行うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今こそ心ひとつに～最高の笑顔を届けよう～」を今期のスローガンに掲げ、職員が一丸となり取り組んでいます。昨年度来のコロナ禍の影響で外出行事や家族参加の行事は難しいですが、日々、ホーム内で楽しめる取り組みを各ユニットで考え、装飾を工夫して季節感を感じて頂いたり、天候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、ホーム敷地内での野菜栽培を通して収穫を楽しむなど様々に工夫を図っています。また、職員の育成に向けても力を入れ、身体拘束・虐待防止に向けた研修後に、独自に作成した理解度テストを実施し、全職員が適切なケアを提供できるスキルが身につくように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修や開設時の研修にて、サービスの意義、理念について共有している。また、事務所内に企業理念、運図っている。	「今こそ心ひとつに～最高の笑顔を届けよう～」を今期のスローガンに掲げ、事業計画書に明示し、事務所への掲示等により全員で確認できる状態にしています。またスローガン策定にあたっては、職員の意見を確認したうえでリーダーを中心に決定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加することはあまりなかったが、外出時には積極的に挨拶を行い、近隣の方に事業所の存在を知って頂けるような関係作りを図っている。移動販売の八百屋・訪問販売のヤクルトを毎週買うようになった。	今年度もコロナ禍の影響で地域行事等が中止となり、行事への参加を通して交流できる機会はありませんでしたが、八百屋の移動販売、乳性飲料の訪問販売を継続的に利用し交流が図れるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や行政の方等に運営推進会議の参加を呼びかけ、支援について行っている事や認知症について理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにより、運営推進会議は中止になっている。議事録を通して現状報告を行っている。	コロナ禍の影響もあり、運営推進会議については書面開催という形式をとっています。運営状況のほか研修やイベントなどの取り組みを書面に残し、行政担当者、社会福祉協議会、家族へ送付しています。具体的な意見等は今のところ表出されていません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を提出して事故報告や研修報告を行っている。	運営上相談事が生じた際には行政の担当課へ連絡を入れて指示を仰いでいます。新型コロナウイルス関連においてもマスクやプラスチック手袋を無償配布頂くなど、衛生用品提供に際して協力を得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時および事業所内での研修において「権利擁護・高齢者虐待防止」について学ぶ機会を設けている。研修に参加できないスタッフには資料を配布し、全職員が、身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアにつなげている。又、今年度から3か月に一度施設での研修を行っているため、意識してケアを行えている。2か月に1度リーダー、ケアマネ、管理で廃止会議を実施している。身体拘束廃止委員会や研修で身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアにつなげている。研修に参加できない職員は資料を配って全職員が正しく理解できるようにしている。クオリティ・マスター制度では研修や小テストを行い定期的に振り返りもしている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて2ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を全体会議の中で実施し職員全体で不適切ケアの発生が無いか確認しています。さらにホーム内での身体拘束廃止研修のほか理解度テストも実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、施設内研修を通して、高齢者虐待防止について勉強会を行い、ユニット内でも声を掛けあって、自身のケアを振り返り、ケアについて正しい理解をし、実践できるように取り組んでいる。		

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、高齢者虐待防止の施設内研修を通して学ぶ機会を設けているが、日常生活自立支援事業や成年後見人制度については学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホーム長より説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催にて意見をもらえる機会はあるが、ほとんどは面会時や電話などを通してである。コミュニケーションを積極的に取り、機会を設けるように努めている。月に一度、各ご家族様へ状況シートを送付し生活の様子などもお知らせしている。また、運営推進会議などに出席いただけるようお願いしご家族の意見を少しでも伺える機会を増やせるように努めている。	家族からの意見や要望等についてはコロナ禍のためホームに来所される機会も少ないこともあり現状は電話連絡を通して確認しています。また、利用者からの要望等は日常会話から収集し、日々の生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティング、ホームの全体会議を開催しており、就業スタッフの意見をくみ上げる機会を設けている。また、毎日の朝礼で管理者の意向を伝えるようにしており、それについての疑問・改善提案も取り入れるようにしている。	ホーム長が中心となり定期的個人面談や日常的に気になることなどがある際にはホーム長から声を掛け不安や悩み等の早期解決に努めています。また全体会議やユニット会議時においても職員からの意見や提案を大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長・リーダー両面から職員個々の取り組みを把握し、情報共有した上で評価している。また、定期的に親睦会を開催し、職場を離れたところでコミュニケーションを取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一緒に業務を行う中で、OJTシートなどを使用し新人職員の育成にあたり、既存職員に対しては一人一人のケアへの取り組みや力量を把握し、助言等を行っている。また、本部での研修への参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での交流は、研修等で行っているが、一部の職員である。社外の交流はほとんどないが、認知症カフェなどで関わることはある。		

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には家族の協力も得てセンター方式を利用しアセスメントを取り、職員全員で共有し関係作りに努めている。本人の言動から要望等を汲み取り介護記録に記入し、情報共有し、統一したケアが実践できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにご家族様と連絡をとり、ホームで生活していく上での注意点や生活状況などを報告し、その都度連絡するように努めている。また、面会時に細かい点や伝えきれていない部分を補っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のプランを作成し、そこからの状態を把握し、情報収集を行っている。集めた情報と家族の要望を含め、必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体として日々の生活が送れるよう、職員が意図的にキッカケ作りを行い、職員と共に意欲的に活動に参加して頂けるような関係作りを行い、ケアプラン外でも他者様との関わる時間を作って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、本人と家族との良好な関係が続くように、面会時の空間作りを行っている。また、家族からケアに対してのアドバイスをいただくこともあり、共に支えていく関係作りを行っている。面会時に昔の話など利用者様についての情報なども得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームとして以前から大切にしてきた馴染みの場所へ外出する機会を作れていないが、家族との外出や友人との面会時、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍の影響もあり、利用者が面会などを通して知人などと交流することは難しいですが、家族や知人の方との手紙のやり取りや電話の取次ぎなどを通して交流が図れるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士が自然と関わり合えるような支援を行っている。場合によって、職員が介入するが、利用者自身で関係が築けるように心がけている。		

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長を中心にサービス利用が終了した後も、事業所としてできるフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々のコミュニケーションを通して、思いを汲み取るように心がけている。また、ご家族様・本人の意向を把握するように努めている。	利用者の思いや意向については日常会話を中心に把握するほか、ケアプランの作成および更新時のアセスメントを通して思いや意向、利用者の日常生活動作状況等について定期的に確認する仕組みを築いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報や、家族に協力をもらいセンター方式を利用し、生活歴などの記入をいただいている。また、本人とのコミュニケーションを通し、これまでの生活歴を把握するように努めている。また、居室内には、本人様の馴染のある家具など持ってきていただいてより住みやすい環境に近づけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムが本人らしい自然なリズムとなるように図っている。また、外出や掃除の時間やADLの変化も共有し、転倒や事故などの予見にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを使い、大まかな生活リズムの把握をし、細かい部分などは、日々の介護記録など、ホームで生活していく中で汲み取っている。又、ユニット会議で問題点を挙げ、改善策などを話し合い、ケアに充てている。	アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。毎月モニタリングを行い、目標の達成度合いを確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護記録を記入し、状態の変化がある場合は詳細を記録し、スタッフ間で共有し、統一したケアに繋がるよう努め、月に一度の会議にて、検討、話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のADLや認知症状が変化した場合は、申し送りや会議等で発信し、スタッフ間で共有し、検討をしている。又職員間で、柔軟に対応できるように日々の様子を共有している		

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃より施設周辺の地域資源の情報を取り、把握に努めている。地域行事には参加はできてはいないが、公園やホーム周辺など散歩などで、地域の情報を集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のもと月に2回の往診医による受診を行っている。また、馴染みのあるかかりつけ医に継続して受診されている方もいる。又オンコールがあり、24時間体制で相談なども行ってくれている。	提携先の医院とは定期的往診を通しての連携体制のほか、24時間連絡が取れる体制があり緊急時にも迅速な対応を可能としています。週に一度提携先医療機関の看護師も来訪され、主治医とも連携が図られていることで利用者への対応もスムーズに行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護は、健康管理連携記録にて情報共有している。体調に変化がある場合や気づきを細かく記入し、適切な処置や対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、入院先の病院関係者とは情報を共有している。入院中はできる限りお見舞いにも行き、ご本人の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が重度化してきている段階では、ご家族と終末期についての過ごし方、方針を話し合っている。また訪問医や家族とも話し合いを行うことで、事業所のできる支援について方針を決め、共有を図っている。	重度化や終末期に向けた方針については利用契約時に各指針に基づき詳細を説明し、説明後同意を受領しています。終末期を迎えた際には、主治医から直接、今後の支援方針を家族の方に伝えて頂き、終末期の方針についてホーム所定の同意書に同意を受領しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム長が中心となり、本人や家族と話し合いを図り、訪問医の意見も踏まえて、施設として出来ることを細かく説明し、今後の方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、日中と夜間を想定した避難訓練、消防訓練を消防署の方を直接施設に招き実施している。またいろいろな災害を想定して行っている。(前期はコロナにより立ち合いなし)	令和3年5月に水害想定、同9月に消火や通報を含めた総合訓練の実施を予定しています。全体で年間3回の訓練を計画しています。災害時用の備蓄品についてもホーム内の所定の場所に保管し、消費期限も定期的に確認しています。	今後、事業継続計画(BCP)の必須化に向け、作成のための情報を収集し、ホーム独自の事業継続計画の作成に向け取り組まれることを期待します。

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉がけを行い、自尊心を傷つけないように配慮している。また、居室へ入室する際は、本人がいない場合には入室する旨を伝え、確認を取ってから入るようにしている。	利用者に対して適切な対応が図れているかについては、毎月の全体会議やユニット会議で適宜確認しています。また日々の記録に関しても職員の言動なども具体的に記録することで、ケアの振り返りなどにもつなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一優先し、自己決定が出来るような環境や言葉がけを意識している。また、困難な場合でも、選択肢を設け、自ら選択できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞ける方には、ご自身のペースで過ごしてもらえるような言葉がけや環境作りを行っている。困難な場合には、本人の様子からこちら側で提案をし、自己決定が出来るような支援を心がけている。また、ご家族様にも相談をし提案をいただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞ける方には、ご自身のペースで過ごしてもらえるような言葉がけや環境作りを行っている。困難な場合には、本人の様子からこちら側で提案をし、自己決定が出来るような支援を心がけている。また、ご家族様にも相談をし提案をいただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の希望を聞き、一緒にケーキを作ったりお寿司を食べたりと楽しみながら他者様と食事ができるように支援している。準備や片付けも一緒に行っている。タイヘイのワンクックにより時間が短縮されメニューが豊富で喜ばれている。	食材は業者への発注のほか、近隣スーパーを利用して調達しています。食事メニューは献立担当職員が中心となり利用者の希望も取り入れて作成しています。盛り付けや食事の味見など利用者の関りも大切にして職員と一緒に準備等を進めています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれに対して声掛けの工夫や食事のタイミングなどを工夫しながら、栄養が不足しないよう、支援している。食事量、水分量はその都度記録し、少ない場合には気を付けられるように共有している。一日の平均を1000mlを超えるように努力している。主治医との連絡を密に行い、健康状態の報告も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で行える方に関しては、見守りや声掛けをして対応し、口腔内の確認を行っている。異変があれば、訪問歯科の無料検診を受け、必要時には治療を行い、助言をもとに介助し対応している。また、口腔ケア委員を選任し職員に向け口腔ケアの研修を毎月行っている。それにより職員の口腔ケアのスキルも上げていくようにしています。		

グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンは、KOT表などで把握に努めている。こちら側から声かけし、本人のしぐさから早めのトイレ誘導を行うことで、オムツへの失禁を減らせるように対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量を1000ml以上と決めて、朝食にはバナナ・ヨーグルトをメニューに取り入れている。また、家事活動も出来る範囲で行うよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決めているが、入浴日には事前に入浴の旨を伝え、納得し、楽しんでもらえるよう努めている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝できるような言葉掛けや環境を整えている。また、状況に応じて午後の午睡の時間を設け休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりのお薬説明書をファイリングし、最新のものを確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、スタッフ間で共有し、その後の状態を薬剤師や主治医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員の要望や得意なこと好きなことを見つけているわけではないが、既往歴や日々の生活の中で見つけ、役割として取り入れるよう努めている。(洗濯物を畳む、食器拭き、食事の盛付など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛けられるように努めている。月に一度外出できるように努めている。	コロナ禍のため全体での外出行事はできませんでしたが、気候の良い日にはホーム周辺の散歩に利用者をお連れするほか、定期的に訪れる移動店舗の八百屋までお連れしたり、ホーム玄関先に設置しているベンチでの日光浴などを通して戸外に出られるように努めています。	



グループホームきらら浦安海楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はこちらで行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニット内に電話があり、希望があれば家族に電話をかけている方もいる。また、家族様から手紙が届く方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせて、時期に合った装飾を利用者と一緒で作成し、飾っている。季節感を感じられるよう工夫し、利用者との会話のきっかけにもなっている。	利用者が集うリビングルームは装飾品の掲示により季節感を感じられるように工夫しています。掃除も日々徹底しており、感染対策として換気もこまめに行っています。玄関先には手指消毒器と検温センサーを設置し感染症予防対策を徹底しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に応じて、食事席を配置している。また、その時その時の本人の気持ちや状態にも気を配り、居場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように、家族に協力を得ている。また、こちらからも提案をしながら、居心地の良い空間作りを意識している。必要なものはその都度、連絡をさせられ、購入などをして頂いている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。換気についてもこまめに行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー化しているが、生活を送る中で、不備があった場合には、すぐに報告し、安全に過ごせるよう対応している。		